

平成 30 年度 全国納税貯蓄組合連合会会長賞

税金から被災地にエールを

天理中学校 三年 今村 美月

最近、ニュースでは天気について取り上げられることが多くなったように思います。理由は、今年の七月の西日本豪雨があったからだだと思います。理由はそれだけではないと思うけれど、もう一度同じ様な災害が起こったときに、少しでも多くの命がたすかってほしいという思いはみんな同じだと思います。そこで私は、西日本豪雨後の被害と税金の関わりについて調べてみました。すると、避難所にクーラーをつけることや、仮設トイレを増やすことに税金が使われていると分かりました。その他にも、被災された方への援助に税金が使われていると知りました。今まで知らなかったことが、今回の西日本豪雨を通して知るきっかけになったことは良かったのではないかと私は思います。

しかし、この豪雨から一ヶ月たった今も、まだまだたくさんの課題が残っていると聞きました。その一つに、大量のゴミの問題が挙げられます。一時的にごみを集めても、その後の処理やにおいの問題など、被災された方々の不自由はすごく大きいと思います。それに、被害にあって家をなくした人、家だけでなく、もっと大切なものをなくしてしまった人がいるということも改めて知りました。

だから、私は、税金はそんな人達の傷を少しでも小さくするために使ってほしいと思います。今回の豪雨では幸いにも私の大切な人達はみんな無事だったけど、次にもう一度今回のようなことが起きたら、どうなるかは分かりません。だからこそ、自分のことに置き換えて、被災された方の立場になって考えることが何よりも大切だと思います。そして、被災地とは遠い場所に住んでいる人に、テレビで見たことやたくさんの情報を通して自分が感じたことなどを伝えることが今の私たちに出来ることだと思います。身近な人にも、とにかく伝えることで変わることはたくさんあると思うからです。そして、私ならその場面で、今回調べたように、税金は被災された人達の役に立っていることや、もとの生活に少しでも近づけるために使われているということを伝えると思います。

もともと災害が多い国で生活する私達は、これから何年か後に来るだろうと言われている大きな地震や、大雨に限らず起こる、さまざまな災害に備えることが大切です。しかし、災害に備えて準備しておくことにも限りがあります。例えば、家の倉庫に、万全に準備をした防災グッズをおいておきます。でも、その倉庫ごとなくなってしまうと私達は何もすることができません。そんなとき、税金の力を借りるのです。だから私は、もしものとき、命をも助けてくれる税金により一層感謝しようと思います。そして今は、そんな大切なはたらきをしてくれる税金を納めてくれている人がたくさんいるということを忘れず、私が大人になったときには、逆の立場から、税金を通して誰かの役に立ちたいと思います。